

学友会コーナー
生徒活動紹介のコーナーです

平成 25 年度前期学友会役員紹介



左から、鈴木、清水、
後藤、松木

談論会、徹文等、清陵は個人の秘めた可能性を発揮する場が沢山ある。可能性、なんとも素晴らしい言葉だ。たとえ 1%でも可能性があれば、不可能ということはないのだから。

清陵生は秘められた可能性をもっている。皆の可能性が爆発したその瞬間、世界は大きく変わる。

清陵にある、可能性の起爆装置のスイッチは皆が持っている。自分の意見を発信し、そのスイッチを押すかどうかは自分次第。そこに学力は関係ない。清陵は変わる。スイッチを押すときがきたのだ。

学友会長 清水 創

果たして中高一貫化された後の清陵はどうなっているだろうか。おそらく想像がつく人なんてほとんどいないだろう。「清陵の未来」は僕たちの手腕にかかっている。分からないものにはとことん頭を使い、考えをめぐらす。それが清陵生。「答え」がないなら作ればいいんだ。

副学友会長 松木 実

皆さんにとっての清陵はどんなものですか？まだ定義できない人の方が多くと思います。皆さんにそれを 3 年間で見つけてほしいと私は願っています。清陵には自治があります。すべきことをして、守るべきものを守って、思いっきり清陵生しましょう。その過程であなたにとっての清陵を見つけてください。それがあなたの財産になる。

一人一人にとっての清陵の定義は違っても、「清陵に来て良かった」最終的にこの思いが皆さんに共通してくれたらうれしいなと思います。

副学友会長 鈴木 菜摘

清陵といえば清陵祭でしょ！参加しないとかありえない。今年も清水ヶ丘で待ってます。

文化祭実行委員長 後藤 詠二

「県大会・全国大会の結果」

ソフトテニス部

平成24年度長野県高等学校新人体育大会ソフトテニス競技会

女子団体

1回戦 諏訪清陵 2-1 上田染谷丘
2回戦 諏訪清陵 2-1 長野俊英
3回戦 諏訪清陵 0-2 上伊那農業 →ベスト8

女子個人

1回戦 野澤、長田 3-4 豊科

男子個人

3回戦 小池、花原 4-3 松本工業
準々決勝 小池、花原 1-4 飯田長姫 →ベスト8

平成24年度長野県高等学校選抜ソフトテニス大会

女子団体

1回戦 諏訪清陵 0-3 東海大学第三

女子個人

1回戦 野澤、長田 0-4 東海大学第三

男子個人

1回戦 小池、花原 1-4 長野俊英

第32回ソフトテニス長野県高校1年生選抜インドア大会

男子個人

予選Cリーグ 小池、花原 3勝0敗 第1位

決勝トーナメント

準決勝 小池、花原 1-4 長野俊英 →第3位

剣道部

平成24年度長野県高等学校新人体育大会剣道大会

男子団体

1回戦 諏訪清陵(吉池、妻嶋、武井、小口、大島)1-3 篠ノ井

選抜決定戦 諏訪清陵 2-2 野沢南(本数勝)

諏訪清陵 3-2 伊那北 →選抜大会県予選出場権獲得

女子団体戦

1回戦 諏訪清陵(山本、奥野、徳田、降幡、武川)2-2 野沢南(本数勝)

2回戦 諏訪清陵 0-4 長野日大 →選抜大会県予選

出場権獲得

美術部

平成24年度長野県高等学校美術展(諏訪地区選抜出品)

小澤由季・朱香綿・奈良井志帆・藤森敬子・七倉有里

イングリッシュ部

第7回全国高校生英語ディベート大会in 千葉

諏訪清陵(大槻、小澤、坂口、秀島、宮坂、宮田)

35位(2勝2敗1分)

吹奏楽部

第55回中部日本吹奏楽コンクール長野県大会(大編成)

銀賞

第38回長野県アンサンブルコンテスト

金管八重奏:銀賞

第11回管弦楽個人・重奏コンテスト長野県大会

重奏の部 金管六重奏銀賞

フルート三重奏銀賞

個人の部 マリンバ独奏金賞 三橋咲歩

ホルン独奏銀賞 内藤彩音

ユーフォニアム独奏銀賞 増澤智哉

水泳部

第86回長野県高等学校選手権水泳競技大会

男子50メートル自由形

5位 松澤光希

男子100メートル自由形

8位 松澤光希

長野県高等学校新人戦水泳競技大会

男子50メートル自由形

3位 松澤光希

男子100メートル自由形

3位 松澤光希

男子200メートル自由形

3位 松澤光希

男子50メートル背泳ぎ

8位 春日亮

男子200メートルバタフライ

8位 笠原佑太

男子200メートルフリーリレー

8位 諏訪清陵(松澤、春日、小口、小川)

男子200メートルリレー

6位 諏訪清陵(春日、松澤、笠原、小口)

陸上部

平成24年度 長野県高等学校総合体育大会駅伝競走大会

(大町駅伝)

男子 諏訪清陵(伊藤、小口、塚田、真道、井口、北原、郡司)

22位(35チーム中)

女子 諏訪清陵(岩波、梶谷、野口、上原、長澤)

11位(16チーム中)

かるた部

第94回横浜大会 個人戦優勝 伊東慎介

生物部

バイオ甲子園

特別賞(マルキン食品(株)賞)「長野県諏訪湖のプランクトン」

守屋、春日

第49回中山晋平記念音楽賞 優秀賞 高木奏

諏訪清陵 学校奨励賞

卒業生(116回生)238名巣立つ

3月2日、前日の雨も夜半には上がり、澄み切った青空の下、第65回諏訪清陵高等学校卒業式が挙行されました。在校生、卒業生保護者、ご来賓、職員の見守る中、第116回生238名(男子144名、女子94名)が巣立っていきました。学校長のはなむけの言葉に始まり、同窓会長、PTA会長からも励ましの言葉をいただきました。また卒業生から学校に、「新古今和歌集全注釈(全六巻)」および「オックスフォードリーディングツリー」一式の図書が記念品として贈呈されました。

式後、引き続き同じ会場で、本校学友会の伝統行事「談論会」が行われ、卒業生、在校生有志が、各自や仲間の思いを壇上で自由に述べました。

真冬並みの寒さと予報された天気とは裏腹に、春の訪れを告げるような暖かさの中、卒業生たちは校内の思い思いの場所で記念写真をとったり、友と語り合ったりし、3年間慣れ親しんだ母校への尽きぬ思いを胸に学舎をあとにしました。



3学年進路係より

3年生は国公立大学前期試験で果敢に第一志望の大学に挑戦しました。卒業式前後から順に合格発表があり、現時点(3/10)で分かっている範囲(現役のみ)では、北大(3)、東北大(2)、筑波大(2)、千葉大(3)、東大(2)、東工大(2)、東京医科歯科大(2)、東京外語大(2)、東京農工大(3)、横浜国立大(1)、金沢大(2)、信州大(25)、名古屋大(1)、神戸大(1)、九州大(1)、首都大東京(4)など、前期までの国公立大学の合格者数は72名でした。厳しい結果がでた生徒は今週の後期試験に臨みます。私立大については明治(25)、中央(16)、法政(14)、早稲田(10)、東京農業(10)、明治学院(9)、東京理科(8)、津田塾(8)、立命館(8)、青山学院(7)、日本(7)、立教(6)、慶応(5)、上智(4)、成蹊(3)、成城(3)、学習院(1)、同志社(1)、関西学院(1)など、延べ人数約280と、多くの生徒が希望の大学へ合格しました。人気の医歯薬(医は医学科のみの数)では、国公立大が東京医科歯科大[医(1)]、信大[医(3)]、北大[歯(1)]、静岡県立大[薬(1)]、私大が独協医大[医(1)]、昭和医大[医(1)]、慶應大[薬(1)]、東京理科大[薬(1)]、東京薬科大(4)、明治薬科大(1)、昭和薬科大(1)でした。4月には結果が揃うので、清陵中高ホームページをご覧ください。



これからの行事予定

4月	4日	新任式・始業式・入学式
	13日	清陵サイエンスフォーラム 21
	26日	クラスマッチ
5月	16日 17日	一斉考査
	18日	授業公開・PTA総会
6月	5日	芸術鑑賞
	19～21日	第1回定期考査
7月	5～8日	清陵祭
	20日	清陵サイエンスフォーラム 21

クラブ紹介

音楽部

私たち音楽部は少人数のため、全員の仲が良いことが自慢です。毎日の練習では笑顔が絶えません。しかし限られた練習時間で効率よく活動するために、やるときはけじめをつけ真剣に取り組めます。一人一人の声をよく聴き、どこを改善すればより良い合唱になるか、全員で意見を言い合って自分たちの曲を作り上げています。

今年度は様々なコンサートに招待されて歌ったほか、夏のNHKコンクール、朝日コンクールとともに銀賞、2月のアンサンブルコンテストでは見事サファイア賞を受賞し、福島県での全国大会出場権を獲得しました。これからもこうした経験を生かし、日々努力を重ねていくつもりです。



音楽部長 宮坂 優希

発行・編集 長野県諏訪清陵高等学校 教務係

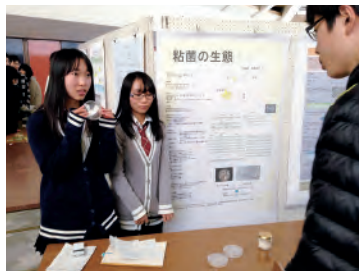
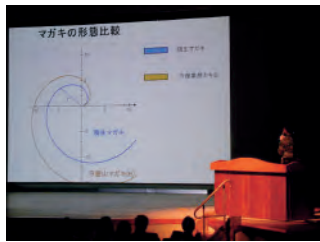
〒392-8548 長野県諏訪市清水 1-10-1 TEL. 0266-52-0201 FAX. 0266-57-2426
http://www.nagano-c.ed.jp/seiryohs/ e-mail:seiryohs@nagano-c.ed.jp

スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

未来を担う科学技術系人材育成のために先進的な理数系教育を行う文部科学省の指定校です。
本校は平成14年度に指定され、今年で11年目を迎えました。

課題探究発表会

2月17日(日)、諏訪市文化センターにおいて2年SSH講座の生徒達による課題探究発表会が行われました。各研究グループが1年間研究・実験してきた内容についてプレゼンテーションを行い、その後ロビーでポスター発表を行いました。保護者、地域の方々も参加し、熱心に説明を聞いたり質問したりしていました。



夜間観測実習



2年SSH講座の生徒30名は、3月に実施されるアラスカ州フェアバンクスでの海外科学セミナーをふまえて、1月18日19日の両日、一泊二日の日程で夜間観測実習および英語会話実習を行いました。本校英語科ALTのゴメス先生による会話トレーニングに引き続き、自然写真家牛山俊男氏によるオーロラ撮影技術講習が行われました。生徒たちは深夜まで、諏訪の星空の観測と撮影実習を熱心に行い、現地でのオーロラ観測に備えました。

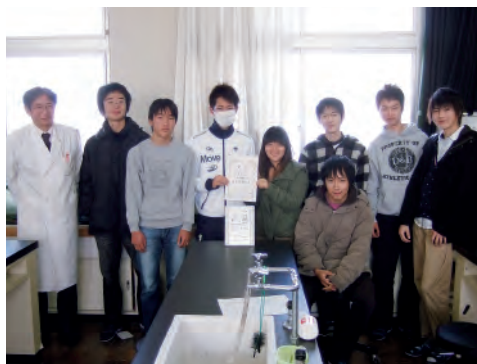
科学の甲子園長野県予選

第2回信州サイエンステクノロジーコンテスト(科学の甲子園長野県予選)が11月11日(日)、信州大学理学部第1講義室で行われました。本校からは2年SSH講座の平野君、下條君、藤田君、広瀬さん、寺島君、金子君、守屋君、宮下君の8名でチームを組み、6名で物理・化学・生物・地学・情報・数学の6分野の問題に挑戦しました。昨年優勝の本校は残念ながら2連覇こそ逃しましたが、見事2位になりました。参加校は屋代高校、上田高校、松本深志高校、伊那北高校、飯田高校など10校で、優勝は長野高校でした。

長野県学生科学賞



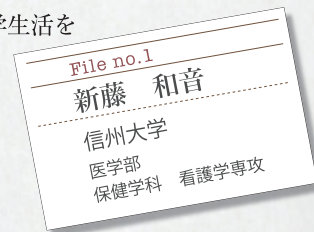
平成24年度(第56回)長野県学生科学賞作品展覧会において3年6部SSH講座の小澤晶徳君の「Excelを用いた渋滞シミュレーション」が優良賞を受賞、3年5部SSH講座の石城陽太君の「フラックス法の時間設定とルビー結晶の大きさ」が入選しました。



卒業生の言葉

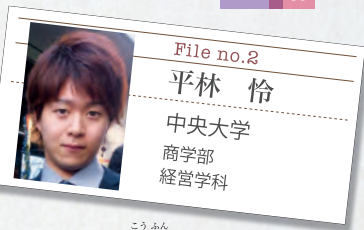
私は高校1、2年生の頃にあまり勉強していませんでした。テスト勉強も直前になって焦らないとやらなかったし、模試のための勉強もほとんどできていませんでした。男子バスケットボール部のマネージャーとしての活動や、昔からやっていた合唱の練習などに時間を費やす毎日でした。テストの結果は毎回悪くて、ちゃんと勉強していればよかったと後悔したこともありましたが、今となっては、高校のうちでしかできないことを思いっきりできたので、良い高校生活だったと思っています。受験勉強を始めたのも遅かったのですが、それでも今、第一志望の大学に通っているので、直前の頑張りは大きかったと思います。模試の判定は直前まで悪かったのですが、絶対に第一志望の大学に行きたい、という強い気持ちで頑張りました。そして、支えてくれた家族や友達、清陵の先生方の存在はとても大きかったです。自分に合った勉強場所を見つけることと、先生方からアドバイスをたくさんもらうこと、自分の目標や夢を明確に持って周りの人に話すことが大切だと実感しました。

大学生活は、勉強の面では科目が多く、覚えることも多いです。し、レポートやテストに追われる毎日で、高校よりも大変です。しかし、自分の目指していた大学での生活はとても楽しいです。自由な時間も多くて、自分の好きなこともたくさんできるので充実しています。受験勉強をしていた頃の自分の頑張りを無駄にしないように、大学生活を過ごしたいと思っています。



昨年度卒業生から清陵の思い出、大学の様子などを聞かせてもらいました。

進路



背伸びの大切さ

元々文章を書くのが苦手な私がペンを執る、さらにはそれが清陵生、そしてこれから清陵を目指す小・中学生宛となると、とりわけ緊張します。黄吻者の駄文ではありますが後輩たちへのメッセージを綴りたいと思います。

四月に上京し夢にまでみた一人暮らし、キャンパスライフの幕開け。自分で組み立てる時間割、バイトでかせいだお金で仲間と旅行。先輩たちに付いて周り、朝帰りの日もあります。イメージしていた通りの新生活でした。しかし一ヶ月後に気づきました。

「この生活なんかつまんね。」
私だけでなく多くの同窓生がそう感じていたと知ったのは暫くしてからでした。桃源郷と錯覚するほどの生活なのに何故こんな思いが湧いてくるのか、一時はただのホームシックかとも思いましたが違いました。たどり着いたのは「子供じみた大学生が多い」ということでした。

子供じみたといっても私が言いたいのは「社会にでて通用するスキルを持ち合わせていない学生が多い」ということです。具体的に言えば自己表現力、コミュニケーション能力、話の組立や交渉術。清陵生が当たり前でできていることが当たり前ではなかったのです。

全校を目の前にして持論を堂々と、時にユーモアを交えて展開出来る奴はカッコいい清陵生として一目置かれます。そのカッコいい清陵生はゼミ討論会でも大活躍ですし、バイト先の社員の人や、お客さんとも話ができるはずです。そうやってどんどん彼の世界は広がっていき、より大人に、もっとカッコよくなっていくはずです。そして尊敬を集めるカッコいい大学生になって社会に出ていくに違いありません。

だからね? 後輩諸君には自信を持ってカッコいい清陵生目指して欲しいわけですよ。もっと前に出て、もっと文章書いて、もっと勉強して、もっと語り合って、背伸びして欲しいのです。

私もこっちで頑張りますから、君たちも是非頑張ってください。

2学年進路係より

3年次に向けての講座選択を夏休み明けから考えてきましたが、11月に研修旅行を終えてからは、各自の進路について落ち着いて見つめ直す時間が持てたと思います。

しかしながら、日頃の勉強や知識だけでは補えない幅広い世界を垣間見てもらうため、12月のキャリア講演会では、NPO法人「難民を助ける会」理事長の長有紀枝さんにお話をうかがう機会を設けました。これからの人生をどうすべきか夢をふくらませるなど、刺激を受けることができたと思います。そして、その夢の実現のためにどのような進路をとればよいのか駿台予備校の板垣宏繁さんにも講演をお願いしました。この講演で、1年後の大学受験に向けて、心構えを新たにすることができたことでしょう。

また、12月の保護者懇談会では、3年生になるにあたり、今足りないものは何か、今後は何をなすべきかを保護者、担任とともに確認するよい機会となりました。

こうしたことは、将来の夢の大枠作りと言えますが、同時に自身の教科学習も強化を図らなければなりません。まず、国語、数学、英語の各教科では授業以外にも定期的に課題を課しています。自主学習をバックアップするために行っているものですから、自分のペースで積極的に取り組んでももらいたいと考えています。また理科や社会では科目選択も多岐にわたりますが、それぞれの希望に合わせ、補習を行なっていて、生徒は重要な学習の場と捉えて、積極的に参加しています。

昨年暮れに行った学習実態調査では、学習にしっかりと取り組むようになった生徒が多数見られ、日頃の授業で感じていた生徒の意識の変化をはっきりと見て取ることができました。

こうした変化が夢の実現の第1歩に確実につながるよう、勉強への姿勢をさらに加速させ、最終学年が実り多きものとなることを望んでいます。